



森のなかま

2022年 9月号

NO. 171 (継続316号)

NPO法人かながわ森林インストラクターの会 <http://www.forest-kanagawa.jp> 発行人 佐藤 恭平
〒243-0018 厚木市中町2丁目13番14号・サンシャインビル6階604号 TEL046-297-0301・Fax046-297-0302

「やどりき水源林のつどい 開催報告」

日時： 2022年8月6日(土) 霧雨～曇り

場所： やどりき水源林

参加者 329名(重複を含む)

コース別内訳：トレッキング 123名、水生生物観察 138名、森林癒やし体験 68名

インストラクター 8/5 準備 35名、当日 63名(計 98名)

他 県・県西・トラスト財団・松田町のスタッフ・出展者等で約 40名

(記 森本 正信⑤ 写真 小杉 小夜子⑩)

3年振りのつどいが、水週間の第一土曜日に開催。水源林は山地故か、ミストを思わせる霧雨～曇りで涼しく、先ずはコロナ禍のなかで実施出来たことは嬉しい。午前中は、トレッキング・水生生物観察・森林癒やし体験で水源林を満喫。

この後、各ブースや体験コーナーでお出迎え。葉巻笛とロケットランは鉄板メニューであることを再確認。式典・森林交流会へと続く中で、参加者に森林との触れあいや親しみ感が促進出来たようだ。



司会 赤崎さん



トレッキング



癒し体験



水生生物観察

新規メニューとして、森の漢字当てクイズとやどりき水源林の動物解説も投入。新鮮さもあってか、子ども達の参加も多かった。今後とも、集客面や企画面で工夫をして、「かながわ水源の森林づくり」を高揚・訴求させていきたい。

水源涵養実験



漢字当てクイズ



大鋸で丸太切り





本の紹介

100年人生に

『草木のめぐみ』 谷田貝 光克 著 海青社

著者は本会(かながわ森林インストラクターの会)の会報誌森のなかまに連載「森のめぐみ」を執筆頂いている谷田貝先生です。その森のめぐみを基にして構成されています。古くから現代までの草木の生み出す様々な力(健康、セラピー、薬や癒やし、そして、地球温暖化抑制等——)が科学的に書かれており真実を冷静に知る事ができます。執筆者紹介記載の他にも以前には香りの図書館館長も務めていました。また、ネパール等の海外にも炭焼き指導にいたりしています。本会 11 期の徳岡さんが中心で活動している”湘南二宮・ふるさと炭焼き会“にも行かれました。

また、科学的データをもとにした「木竹酢液ハンドブック」も一読をお勧めいたします。

<記: 11 期 松本 保>

植物が健康に関わる新たな働きを紹介する

100年人生に
草木のめぐみ

谷田貝 光克 著



海青社

100年人生に
草木のめぐみ

谷田貝 光克 著

- 冊子版: 四六判、184頁(カラー6頁) 定価1,870 [本体1,700+税] 円
ISBN978-4-86099-399-3
- オンライン版: 無期限1,870円、1-yearアクセス935円 *小社ウェブで販売。

人は自然のめぐみのなかで暮らしてきました。今、そのめぐみをあらためて見直す時を迎えています。カーボンニュートラルな資源として注目される植物の健康に関わる新たな働きを紹介。



内容見本はこちら



関連書・好評発売中

木竹酢液ハンドブック
特性と利用の科学

谷田貝 光克 著

定価2,860 [本体2,600+税]円
A5判180頁 2015年刊
ISBN978-4-86099-284-2

土壌改善、植物の成長促進、虫害対策、防腐、消臭等、科学的データをもとに木竹酢液の効能と特性を紹介

◆ 主要目次

1. 森のめぐみを考える
2. 森のめぐみのもとになる草木の成分
3. 森に漂う木の香り、その正体は?
4. 多様な働きをするポリフェノール
5. 薬効など生理活性を持つ配糖体サポニン
6. 植物の色のもとになるフラボノイド
7. 草木の色の利用
8. 草木は成分によって生き抜く術を得ている
9. 健康を保つのに役立つ植物成分
10. がんを防ぎ・抑える
11. 森のめぐみを見直そう

◆ 執筆者紹介

谷田貝 光克 (やたがい みつよし)

理学博士。東京大学名誉教授、秋田県立大学名誉教授。ふるさと精油をつなぐ会代表、農学生命科学研究支援機構理事長、日本木酢液協会会長、炭やきの会会長。日本農学賞、科学技術庁長官賞等受賞。著書多数。

フリーダイヤル FAX 0120-535-939 / TEL 077-577-2677 または 小社HPでご注文ください

《本用紙でお申込、またはHPでメール会員にご登録の場合は送料無料。代金は後払いです。振替用紙を同封して送付いたします》

*公費注文の場合は見積書・納品書・請求書の宛名と日付もご指示ください。



海青社

〒520-0112 大津市日吉台2-16-4 Tel. 077-577-2677 Fax. 077-577-2688

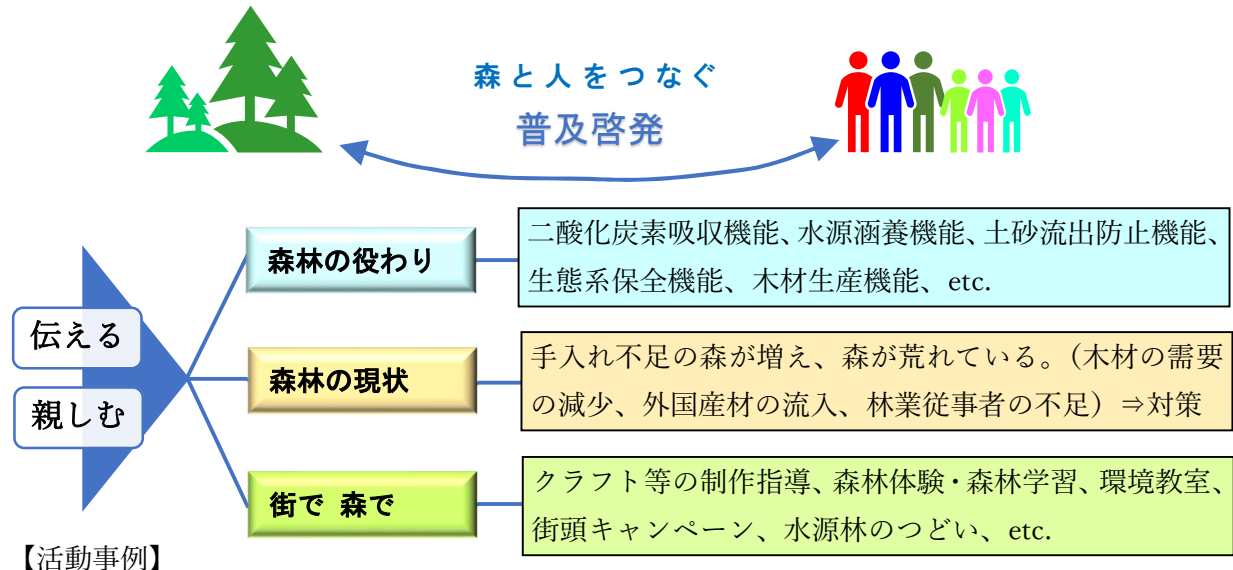
HP: www.kaiseisha-press.ne.jp, eStore: www.kaiseisha-press.ne.jp/estore.html



かながわ森林インストラクターの会紹介 (普及啓発部会)

(記 部会長 井出 恒夫①)

森林の重要性を広く県民に訴え、理解を得るために、学校・企業・諸団体などを対象に、森林や林業や野外活動などに関する、各種の指導、授業および支援を行っています。



丸太切り (水源林のつどい)



森林の役わり解説 (街頭キャンペーン)



水生生物観察レクチャー (環境教室)



水源涵養実験 (学校行事)

かながわ森林インストラクターの会紹介 (やどりき事業部)

(記 事業部長 水口 俊則⑨)

やどりき事業部の活動エリアは松田町寄にある「やどりき水源林」です。「やどりき水源林」は、自然林と人工林がおおよそ半半ずつで構成される約 529ha の森林で、神奈川県が、水源の森林づくり事業における見本的な森林整備を行う場として、また県民の理解と参加を推進する活動拠点として、H11 年 (1999) 3 月に取得しました。

やどりき水源林にはどなたでも利用できる 3 つの散策コース「林道コース」「Aコース」「Bコース」があり、また、中央には寄沢の清流と落差 17m もある「滝郷の滝」があります。そのため、溪畔林が形成され、とても自然豊かな森となっています。ここには、企業・団体などの森林整備活動の場や、広葉樹の苗木の寄付をいただき、お子さまの健やかな成長と苗木の成長を重ね合わせて、いつまでも神奈川の森林に愛着をもって親しんでいただこうという「成長の森」という植栽地もあります。

この水源林で、やどりき事業部は、以下のような活動を行っています。

<委託事業としての活動>

(1) 「森の案内人」

12 月から 2 月を除く、毎週土曜日と日曜日。10 時と 13 時の 1 日二回、インストラクター 2 名一組で一般来訪者にやどりき水源林をご案内しています。来訪者には県が進めている「水源林の森林づくり事業」に基づく水源林の保全・再生活動に対する理解と協力を得るための啓発活動や、いやし体験・水棲生物観察・クラフトなど体験活動を行っています。水源林の自然の豊かさを五感で体感していただき、新しい発見をしてもらうことで、やどりきにまた来よう！と思っただけのように努めています。 [<2022 年度 森の案内人予定>](#)

(2) やどりきの森へ行こう！ イベント企画

さらに多くの方をご案内するために、年 3 回「いやし体験」、「丹沢の成り立ち」、「ミツマタの鑑賞」の各テーマで、20～50 名の方を募集し、体験会、観察会をおこなっています

(3) 水源林ニュース (情報発信)

12 月～2 月を除く毎月、水源林の魅力を A4、2 枚にまとめインターネットで発信しています。これまでの水源林ニュースは以下のリンクで閲覧できます。 [<ニュース一覧>](#)

<委託事業とは別に会独自の活動>

(1) 調査班活動

森の案内人として必要な水源林の状況、魅力を調査、保全するとともに、森林インストラクターとしてのスキルアップを行う場の提供を目的に ①植物調査班 (年 12 回実施)、②動物調査班 (年 12 回実施)、③土壌・水生生物調査班 (年 4 回実施)、④周辺地域調査班 (年 2 回実施) があります。④については、寄バス停を起点とした観察会を 2022 年度より開催し、春の「枝垂れ桜三昧」は大成功でした。

(2) やどりきの森へ行こう！ イベント

上記の年 3 回のイベントのうち、2 回は会独自の活動として実施しています。



水源林 MAP



森の案内人の様子



ミツマタ観察イベント



枝垂れ桜三昧 観察イベント



ムササビ

以上

かながわ森林インストラクターの会紹介 (日本触媒の森事業部) (記 事業部長 内野 ミドリ⑨)

株式会社日本触媒が行う「日本触媒・湯河原万葉の森」整備活動を(公財)かながわトラストみどり財団からの業務委託契約に基づいて活動をしています。活動地は、湯河原町が所有する人工林で標高 300～700mにあり主にヒノキが育つ森です。県が管理する白銀林道沿いにあり、林道通行許可証の交付車両で現地まで入ります。

2013 年 11 月に開所し、インストラクターは年 3 回(春季・夏季・秋季)の体験活動の指導を行い、体験活動の合間には、林内整備、環境保全、動植物の調査、散策路の整備、森だよりや花ごよみの編集などを行って、今年で 10 年になります。近年は、台風の影響で活動が中止されたり、コロナ感染症の影響で活動を自粛したり、と残念ながら日本触媒の社員さんを迎えての体験活動ができていません。今年度は夏季体験活動が行えるとメンバー一同が楽しみにしていたのですが、コロナ感染者の急増で中止が決まりました。8 月 11 日にインストラクター 11 名で植栽地や作業路・水源地の下刈りなどの環境整備を行いました。下記活動紹介は開所当時の体験活動の様子です。

森林体験活動では、ヒノキの間伐(写真①)、少花粉スギやクヌギ・コナラの植栽(写真②)、植栽地の下刈り(写真③)、シイタケやナメコの植菌、ベンチ・テーブルづくり(写真④)、お子さんたちのクラフト(写真

⑤)、散策コースの自然観察などに行ってきました。また、森を散策するうちに見つけた棚田状になっている沢を活動に利用したいとお願いして、経路を整備してもらい水源地整備(写真⑥)も行いました。以前ワサビを栽培していたようで、ワサビのほか、クレソン、フキ、セリなども育ち、春季体験活動ではお浸しやサラダにして食べたりしました。沢の水は水質調査をしており、そのまま飲むこともできますが沸かしてセンブリ茶やクロモジ茶にしたり、山野草を茹でたりしています。

活動地は県の西端で遠いですが、メンバーの協力で楽しく業務委託契約を履行できています。来年度は開所 10 周年記念行事も予定されています。記念植樹の苗木用に、活動エリアの広葉樹の稚樹を苗畑に移して育てています。また、植栽した少花粉スギが成長して、枝打ちや間伐等の手入れが必要な時期になってきています。開所当時のメンバーは少なくなり、新しいメンバーの加入を期待しているところです。関心のある方は事業部長までご連絡をいただけると幸いです。



事業部メンバー 事業部長⑨内野ミドリ 副事業部長⑨辻村寿 ⑦坂齋明
⑨女川修 ⑨水口俊則 ⑪上宮田幸恵 ⑫石川裕一 ⑭岩田典義 ⑭黒川敏史 ⑭鈴木淳
⑭牧石稔 ⑮石垣桃栄 ⑮河西静夫 ⑮西村充弘 ⑯小林照夫 (15 名)

活動短 信

今回の掲載は R4 年 6 月 25 日から 7 月 4 日分です。
寄稿頂いた中には、紙面都合や寄稿タイミングで次号以降の掲載になるものもあります。

9 月(長月)(旧暦 8 月葉月)の 二十四節気と田んぼ(鎌倉)の様子

白露 9/8 頃

セキレイが鳴き始め、ツバメが去るころ。田んぼでは、稲が熟し穂が垂れてきます。

秋分 9/23 頃

暑さも雷も彼岸まで。今年はどうなるでしょうか。田んぼでは稲刈りの準備です。

活動短信への投稿概略フォーマットと略語の説明
ページレイアウトは気にせずベタ書きで結構です。
(できれば Word、メール直筆でも OK。Excel はできるだけ避けてください。改行等の処理に手間を要しますので写真もあれば添付ください。)

◆ 活動団体・活動名 等

日 日付(できれば時間と天気も)

場 場所 (例:相模原市緑区 長竹承継分収林)

参 参加者 人数

県 例 神奈川県 環境農政局 緑政部

水源環境保全課 水源の森林推進グループ

財(公財)かながわトラストみどり財団、**看** 看護師

スタッフ 例 小田原市森林組合 XX 様

例 川崎市公園緑地協会・XX 様

イ インストラクター① (○数字:期) **研**:研修枠

以下、本文を概ね 400 字前後を目安として執筆ください
リーダーは責任を持って執筆者の選択と執筆後のチェックをお願いします。(執筆者名もお忘れなく!!)

活動終了後の速やかな投稿をお願いいたします。

◆ 株式会社 アルバック

枝打ち、木工工作活動

日 令和 4 年 6 月 25 (土) 10:00~12:30 晴れ

場 21 世紀の森

参 大人 39 名、子供 14 名

県 環境農政局 緑政部 水源環境保全課

水源の森林推進グループ 岡田様、村田様

イ L 牧石⑭、山崎⑦、村井⑨、上田⑩、松本⑪、
石垣⑮、大友⑮

株式会社 アルバック 活動名:森林再生プロジェクト
の第 1 回目の活動が行われた。

当日は梅雨入りと思えない夏日の中での活動となった。
10:00 木工芸センター前の広場に全員が集合し、
挨拶、インストラクター紹介、準備体操を行った。参加
者は枝打ちグループ、木工工作グループに分かれ活動実
施。枝打ちグループの参加者 22 名(子供 2 名)は用具
倉庫前に移動し用具の搬出、装着を行い 10:40~枝打ち
作業を開始。11:00~一斉休憩と水分補給を行い、

11:45 現場での作業を終了
合計約 80 本の枝打ちを
行った。

木工工作グループの参
加者 17 名(子供 1 歳~
10 歳 9 名)+スタッ
フ 5 名の 22 名は準備体
操終了後、インストラク
ター 2 名の案内で森林館
内の研修室へ移動、木工工作内容は鉛筆立て、スマホス



タンド、ピンボール、
カリンパ、小物入れ、
ストローパチンコ、コ
マ、ゴムガンの組立を
実施。11:00 木工工作
が全て完成し記念撮影
が行われた後、インス
トラクターの案内で森



林館内の展示室の見学⇒園内の林間広場に移動し相模湾
の眺望を堪能⇒平成 25 年度の成長の森に移動し枝打ち
現場を見学。

12:20 木工芸センター広場に全員が集合、挨拶を行
い予定通り終了した。(記、写真 牧石 稔⑭)

◆ 日揮グループ 水源林保全活動

日 令和 4 年 6 月 25 日(土) 8:45~13:10 晴れ

場 塚原水源林 日揮グループ癒しの森

参 大人 9 名

県 神奈川県 緑政部 水源環境保全課 武田様

イ L 岩田⑭、上宮田⑩

梅雨時で天候が心配されましたが梅雨明けを思わせるよ
うな晴天となりました。

水源林は朝方 8:00 頃までガスが掛り霧雨模様、開始事時
刻には日が照り青空が広がり野鳥が囀り、心地良い風が吹
き出し絶好の下刈り日和のものと活動となりました。

予定より早く 8:45 から開会セレモニーが開始され、日
揮グループ佐藤様と神奈川県の水源保全課武田様の挨拶、
全員出身地を盛り込んだ自己紹介、JGC 体操(日
揮様が独自に作
った効果的な体
操)を動画に合わ
せて行いまし
た。



道具を搬出し、下刈りのデモと安全上の注意点等説明の後、9:30 から下刈り作業が開始されました。

植栽地の際の斜面を下方に向かって一列で侵入し、各自担当エリアに配置、横方向(水平方向)に下刈り作業をしました。作業は皆手際良くチームワークも良く水分をこまめに取りながら、途中3回植栽地から出た大休憩を挟み順調に進みました。

最後終了時間が迫りほんの一部刈りにりましたが、植栽地の全域の下刈りが12:00に完了しました。

仕上がった植栽地を眺め達成感を味わい、苦労を労い、絆を深め、将来の癒しの森の姿を思い浮かべておられました。

駐車スペース付近ではモリアオガエルの産卵された卵を観察し、野鳥の囀り、カエルの声を楽しみながらの充実した時間を過ごされていました。

作業終了後、道具を清掃し収納、昼食を取り、閉会を行い次回の抱負を確認し、13:10 水源林を後にしました。

(記、写真 岩田 典義^⑭)

◆ 第5回 県民参加の森づくり活動

下草刈り

日 令和4年7月2日(土) 9:00-13:00 晴れ

場 小田原市荻窪(緑の祭典植栽地)

参 76名(スタッフ含め100名)

財 豊丸課長、古舘様

看 榊様

スタッフ かながわ緑の大使宮田様、小田原森林組合2名、小田原市農政課 寺田様 瀬戸様

イ L 松石^⑬、柏倉^④、稲辺^⑤、内野^⑨、石川^⑫、上宮田^⑪、西出^⑫、大原^⑬ 小松^⑭、森^⑮、竹内^⑮、永田^⑯、小林^⑯、堀口^⑯、原田^⑯、松浦^⑯

梅雨明け後の快晴で集合時間から強い日差しとなりました。インストラクター打合せでは本日の安全目標を「暑さ対策、しっかり給水し熱中症対策を！」としました。気温30度を超える予報にもかかわらず76名に参加頂き、バスで約15分で到着。5班に分かれ、班ごとにヘルメットと鎌を準備し徒歩で移動。現地は2016年に植林した6年目のひのきで2メートル程度。下草は主にススキで人の背丈程です。活動前は下草で地形もよくわからない状態でしたが、20分ほどすると視界も開けひのきが光合成ができる状態が確認できました。今回は先生に引率された中学生11名も参加しました。また、「かながわ緑の大使」の宮田満帆さんも一緒に活動頂きました。鎌の手入れをして活動終了。体調不良やケガの方はいませんでした。参加者からは「作業は予想より大変で暑かったが達成感があり楽しかった」「森の面倒をみるのは

大変ですね」「鎌の使用方法に慣れるまでは大変でしたが丁寧な指導頂けた」

「高校生の息子と参加したが来月は娘と来ます」「色々な方

に声をかけてもらい嬉しかった」などの感想を頂き、充実した時間を過ごして頂いたようです。

(写真：松石 藤夫^⑬ 記：松浦 正^⑯)



◆ 横浜市八景小学校 間伐体験

日 令和4年7月4日(土) 9:00~11:30 雨

場 愛川ふれあいの村

参 大人8名、子供5年生2クラス 65名、計73名

財 古舘様

イ L 牧石^⑭、佐藤^①、佐藤^⑤、滝澤^⑤、小野^⑦、松本^⑪、石垣^⑮、小林^⑮

台風4号の影響で前日より不安定な天候のため、小学校の前日の判断で当日の活動は間伐体験活動から雨バージョンの森林講和、コースター作り活動に変更された。当日は朝から小雨模様、9:30 体育館に集合し、挨拶、インストラクター紹介後、6班に分かれ最初に約30分森林講和を行った。

次にコースター作りを開始。鋸の扱いに慣れるまで、インストラクターが手を添えコースター作りを指導。慣れてくると、一人で鋸が引けるようになり、丸太の両サイドを利用して効率良くコースター作りが実施された。開始から約1時間後には各自1枚以上の作成を完了した。

コースター作りの次は体育館に展示された「森林の大切な働き」「森林の力を引き出す林業」「間伐で健全な森林づくり」等の各パネルを活用し森林の説明も行われた。今回実施できなかった間伐用具も展示され、インストラクターが使い方を説明すると皆さん熱心に聞いて頂いた。活動終了前にコースター作成で発生した木屑の清掃を行い予定時間の11:30に終了した。

(記、写真 牧石 稔^⑭)



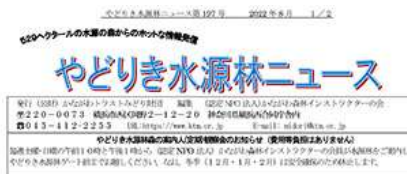
やどりき水源林ミニガイド

「森の案内人」

案内人は、皆様をお待ちしています。

水源林にお出かけください。

やどりき水源林ニュース 8 月号
発行しました。



<http://www.forest-kanagawa.jp/4field/news/news197.pdf>

- やどりき水源林問合せ:
(公財)かながわトラストみどり財団
TEL: 045-412-2255
FAX: 045-412-2300
- ホームページ: <http://www.ktm.or.jp>
E-mail: midori@ktm.or.jp

森のなかまは過去号もご覧になれます。

(ホームページ) <http://www.forest-kanagawa.jp/3kiroku.html#kiroku01>
(HP 担当: 井出恒夫)

◇ 森のなかま原稿募集 ◇

会員読者の皆様から広く募集しています。

<広報全般についてのお問い合わせ>

黒川 敏史

kurokawa.family@aa.cyberhome.ne.jp

Tel: 080-5477-2206

<電子配信会員向け担当> 笠原

Mail: happy_kumakuma711@icloud.com

<電子配信企業等パートナー様向け担当>

柳澤 Mail: kshinrin_pr@icloud.com

<メール・手書き原稿送り先>

【本誌】黒川 敏史

Fax: 0467-46-8650

電話連絡先: 080-5477-2206

kurokawa.family@aa.cyberhome.ne.jp

【別冊】小林 照夫

Mail: ts pocket17@gmail.com

原稿は随時受け付けています。

年間通読のお申し込み

「森のなかま」年間通読をご希望の方は、郵便局備付けの郵便振替を利用してお申し込み下さい。

郵便振替口座 00230-0-2454

かながわ森林インストラクターの会

宛まで2000円をお振込み下さい。振替用紙には、必ず、住所、氏名を明記して下さい。振替用紙到着の翌月号から12回/1年間お届け致します。

編集後記

★やどりき森の案内人の当番で久しぶりに成長の森への案内を行った。お客様はまだ若い夫婦と中学生の男女の双子！初めての来訪だとのこと。植林は21年度の森で前日の雨で増水している沢を渉る。アルミ橋を架けたがやっぱり全員靴は濡れて。

草深い道をかき分け・・・やっとの思いで名前の入っている看板に。写真を撮り戻る。ヒルにはやっぱりしっかりと歓迎されました。最初見た時には「あっ、尺取虫！」と言っていたけど。

大事な自然のひとつの有用な利用法なのだと再認識しました。(吉田)

★先月、不注意にも右手首を骨折してしまいました。不自由な毎日です。人の優しさと、生活する上での厳しさを味わっています。良い経験です。

(笠原)

★昨今のニュース、天気予報で盛んに報道されるのは、大気が不安定・線状降水帯とそれに伴う大雨・川の氾濫・土砂崩れで、全国各地で発生しています。神奈川は、今のところ大きな被害はないですが、明日は我が身といったところでしょうか？森林の保水力に期待したいところですが、保水力を超えると一気に崩れ、木が破壊兵器になってしまうという困った事態も心配です。(黒川)

森のめぐみの掲載は、
今月号はありません。
次掲載は10月号です。

森のめぐみ シリーズ

かながわしずくちゃん Facebook は下記URLで見ることができます。



かながわ森林インストラクターの会は『緑の募金』の支援団体としても取組んでいます。
全国で5番目/NPO法人で初めて委嘱されています。

本紙に長期にわたり「森のめぐみ」の寄稿いただいている谷田貝先生の本が出版されました。(本紙2ページに紹介記事を掲載しました)是非皆様ご購入いただき、科学的な側面から見た、「草木のめぐみ」の知識を仕入れ、インストラクター活動時の講話などの話の深みを増してください。

購入は、「海青社」のホームページ[海青社 eStore・トップページ \(kaiseisha-press.ne.jp\)](http://kaiseisha-press.ne.jp)からお入りください。支払はクレジットカード、振込などが選択できます。

広報部 黒川

編集人: 黒川 敏史

広報部: 吉田郁夫 松本保 笠原かずみ 阿藤壽孝 長尾晴子

竹内明彦 柳澤千恵美 小林照夫 中澤良夫

支援: 大原正志 江頭淑子